

山岳部通信 No.12

山岳部の紹介と活動状況をお知らせしていきます。



昨年は台風により中止になった安全登山技術講習会が本年度は8月の開催を9月に変更し、さらに講習会場を埼玉県中津川から神奈川県丹沢に変更して実施されました。



丹沢山系は神奈川県秦野市の北側に位置する丹沢山を筆頭に大山、鍋割山、塔ノ岳と関東圏でメジャーな山々がある山域で、秦野市には神奈川県を機に開設された神奈川県立山岳スポーツセンターがあり、ここを中心に9月20日～22日の2泊3日で講習会が実施されました。

学校を6:00に出発、千歳発6:29で新宿へ、小田急線に乗り換えて渋沢そして神奈川中央交通バスにて大倉へ。この地での実施は6～7年前まで行われており顧問としては懐かしく思えました。こと生徒にとっては昨年の中止もあり初の技術（実技）講習会となりました。



山岳スポーツセンターでの開講式
[15mのクライミングボードの前で]

幕営地である滝沢園キャンプ場到着後、テント設営を行い実技講習の装備一式携えて開講式会場の山岳スポーツセンターへ向かいます。

『9月20日』

初日の開講式後まずは2班に分かれ、班ごとに【ロープワーク講習】: ブーリン (もやい結び), エイトノット, インクノット, ダブルフッシャーマン, ブルージック, マッシュャーノットを基本としてマスターし、その後班ごとに【カタガラミによる懸垂と掛替えによる登返し】と【読図の事前講習】を班を入れ替えながら行われました。



カタガラミによる懸垂下降

ブルージックやマッシュャーノットを使用しての掛替えながらの登返し



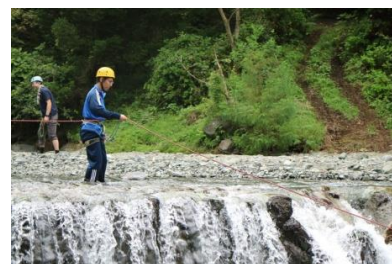
『9月21日』

2日目は4班編成になり、2班合同で行われる【読図実践】、1班ずつ行われる【渡渉・トラバース】、【ビバーク・搬送】をローテーションしながら講習が行われました。



読 図 実 践 : 実際の山中に入っでの読図講習

読図実践では、実際の山域に入り 25000 分の 1 の地形図（実際に山で使用される地形図）とコンパスを頼りに、人工物や尾根・谷など地形図に示されている事柄と自分たちの位置関係や、そこから見ることのできる目標地（ピークや山頂）などを実際に確認しながらの講習でした。



渡 渉 ・ ト ラ バ ー ス は 実 際 の 沢 に 入 っ て 講 習

渡渉・トラバースでは、実際に沢に入り、メインロープで確保されたフィックスをつたいながら安全を確保しつつ、どのように危険箇所を回避しながら行動するかなど、実技講習ならではの貴重な体験をすることができました。



ビバーク・搬送：危急時の対応

ビバーク・搬送では、あつては困るけれども、もしその時!!という場面を想定し負傷者の移動のさせ方、搬送の仕方、行動ができなくなった時の緊急避難などについての講習が行われました。

普段のテント生活でなく、緊急避難的な雨よけ（ツェルト）の設置方法やサブザックの利用、危急時に役立つノウハウなど「普段は必要のない」でも知っておかなければならない事柄について様々に発想の転換と工夫を凝らした技術講習でした。

『9月22日』

3日目は班ごとに反省会が行われ質疑応答、その後幕営地で閉講式を行い学校まで戻りました。この2泊3日の技術講習は、校内での部活動で得る事や経験・体験のできない様々な事柄について、自然の立地を生かし、利用して行われとても充実した講習会でした。

次の活動報告は、新人大会（山梨県：檜形山）の報告になると思います。お楽しみに!!